

CLUB CONEX FACE-FIT 組立説明書

発売以来、ご好評を頂いているCLUB CONEXがフェイスアングル調節モデルをラインナップ!!

主な改良ポイント

- 1)フェイスアングルをニュートラル、オープン1.5、クローズ1.5の3ポジションに設定可能。
- 2)公式競技でも使用可能
- 3)左打ちクラブにも使用可能(オープンとクローズの位置関係は反転となります)
- 4)シャフト挿入量が従来品よりも長くなり、より通常クラブに近い仕上り
- 5)フリーナット方式の採用により、使用中の緩みを解消

FACE-FIT システム構成

#8282-1601 ウッド用ホーゼル・アダプタ (335TIP)

#8282-1701 ウッド用シャフト・アダプタ (335TIP)

#8282-1801 ホーゼル・アダプタ・インストレーション・ツール(H.A.I.T)

#8282-1901 FACE-FIT 専用レンチ

●左右兼用 ●カーボン・スチールシャフト兼用

●ホーゼル・アダプタ: 5.0~5.5g

●シャフト・アダプタ: 5.0~5.5g

※オーバーホーゼルのヘッドには対応していません。



※一部、商品と画像は異なります。



※ホーゼル・アダプタはアダプタ基部とコンプレッション・ナットからなっています。コンプレッション・ナットの装着向きにご注意下さい。(上写真参照)

【注意点】

- ・旧モデルのFF-II、FAZ-FIT、4-PLAY、FAZ-FIT V.2等とは互換性がありません。
- ・FACE-FITシステム組立時は、ホーゼル・アダプタを先にヘッドに組み付けた後、シャフト・アダプタをシャフトに接着して下さい。
- ・FACE-FITはクラブ・コネクタ FACE-FIT専用レンチ(8282-1901)が無いと、使用できません。専用レンチ以外で締め付けた場合、重大な事故を引き起こす可能性があり、メーカー保障の対象外となります。
- ・適切な組付けには、ホーゼル・アダプタ・インストレーション・ツール(8282-1801)が必要です。必ず、ご用意下さい。
- ・FACE-FITホーゼル・アダプタは、平均して**スイング・ウェイトで4ポイント程度増加**するため、通常組立時のスイング・ウェイトを再現するためには、**4g程度、軽量のヘッドを使用**するか、シャフトのバット端にカウンター・ウェイトを使用されることを推奨致します。
- ・シャフトをヘッドに挿入しないため、シャフト・メーカーの指示値よりも、**1.25インチ、チップカット長を長めにカット**することを推奨いたします。ただし、チップ・パラレル長を確認した上で、チップカット長は調整して下さい。
- ・**グリップは、少なくとも52g以上の重量があり、バックラインの無いもの**を推奨致します。
- ・ホーゼル・コネクタとシャフト・アダプタの過剰な締め付けにご注意下さい。過剰な締め付けはネジ山の破損の原因となり、メーカー保障対象外となります。
- ・本モデルはオーバーサイズ・ホーゼルには使用できません。また、シム等をホーゼルアダプタの接着時に使用することも、接着不良や怪我の元ともなり得ますので、お止め下さい。
- ・コースでの使用に際しては、コネクタ周辺に付着した水分や塵芥をこまめに取り除いて下さい。
- ・時々、綿棒やベンジン等を用いて、ネジ山や溝を掃除して下さい。
- ・ヘッドとシャフトの組み合わせを長期に渡って変更せず、使用し続ける場合には、コンプレッション・ナットを接着剤等で固定し、ネジ内部への水分や異物の混入を防いで下さい。
- ・温度・湿度の劇的な変化はアダプターや、クラブに悪影響をもたらしますので避けて下さい。また、異常な高温もしくは低温環境でクラブを保管することの無いよう、ご注意下さい。

【装着、取り外しに使用する主な工具、用品】

接着剤、アセトン(ベンジン)、綿棒、ペーパー・タオル、マスキング・テープ、油性ペン、ゴム・ハンマー、ベルト・サンダー(サンディング・ペーパー)、耐熱手袋
※その他、各種クラブ組立工具/用品、及びリシャフト工具/用品

○ホーゼル・アダプタの装着



手順 1.

コンプレッション・ナットのネジ山が上側(シャフト側)を向くようにアダプタ基部を通し、ホーゼル・アダプタ・インストレーション・ツール(H.A.I.T)をアダプタに挿入します。接着を確実なものにするため、サンド・ペーパー等を用いて、接着面の表層を軽く研磨します。研磨後、削り屑を除去して、アセトンやベンジンで脱脂します。



手順 2.

接着剤を用意します。超速乾タイプよりも、硬化開始まで一定の養生時間を要するタイプの方が、作業は容易です。グラスビーズは使用しないで下さい。ネジ部分に入り込み、ナットの動作不良の原因となります。ヘッドのホーゼル内部に、接着剤を塗布しますが、つけ過ぎは避けて下さい。溢れた接着剤が、ナットを固着させ、動作不良を引き起こします。



手順 3.

コンプレッション・ナットを固着させないように、H.A.I.Tにナットを引きつけながら接着剤を塗布し、ホーゼル・アダプタをホーゼルに回し入れます。H.A.I.Tを持って、アダプタが止まる位置まで押し込みます。この時、コンプレッション・ナット底部はヘッドのホーゼル上端に接する形となります。



手順 4.

H.A.I.Tを抜き取り、コンプレッション・ナット底部とホーゼル上端が接する箇所にも溢れた接着剤が残っていますので、ホーゼル・アダプタを一旦、持ち上げて、入念に接着剤を取り除いて下さい。この部分に接着剤が残っていると、コンプレッション・ナットが廻らず、シャフトの組み付けが出来なくなります。ホーゼル・アダプタ上部にも溢れた接着剤等が残らないよう、綿棒やアセトンで取り除きます。この時、コンプレッション・ナットのネジ部に接着剤をつけないよう、ご注意下さい。



手順 5.

確実に接着剤を取り除いたら、もう一度H.A.I.Tを挿し、アダプタと噛み合わせて、最後まで挿入されていることを再確認し、写真のようにH.A.I.T上部の矢印がヘッドのリーディング・エッジが平行で、トゥ側(右利き用ヘッドの場合)を指すように、アダプタの向きを調整します。この作業の精度が、シャフトとヘッドの向きを左右しますので、慎重に行ってください。調整したら、H.A.I.Tを抜き取り、接着剤の硬化を待ちます。

※左利き用ヘッドの場合、H.A.I.Tの矢印がヒール側を指すように調整します。



手順 6.

接着剤が硬化し始めたら、コンプレッション・ナットを専用レンチで廻し、固着を防ぎます。数回に渡ってこれを繰り返すことで、接着剤の残余物も取り除くことができます。アセトンを使用してホーゼル・アダプタの内外を拭き取り、コンプレッション・ナットが自由に廻ることを確認して下さい。コンプレッション・ナットが廻らない場合や、がたつきが生じている場合は、一旦、ホーゼル・アダプタを外し(4ページ、「ホーゼル・アダプタの取外し」参照)、「ホーゼル・アダプタの装着」手順 1からやり直して下さい。接着剤の所定硬化時間経過後に、使用して下さい。

○シャフト・アダプタの装着



手順 1.

接着を確実なものにするため、サンド・ペーパーやリーマー等を用いて、シャフト・アダプタのシャフト挿入孔内の接着面表層を軽く研磨し、削り屑を除去して、アセトンやベンジンで脱脂します。



手順 2.

シャフトのカットは、規定チップカット長に、1.25インチ加えることを推奨致します。これはシャフトをヘッドのホーゼルに挿入しないため、通常組立時に較べて、クラブの先端が軟らかく仕上がってしまうことを避けるためです。ただし、規定チップカット+1.25インチのチップカット後、チップパレルの長さは最低でも1.5インチ必要です。シャフトのチップパレルに応じて、可能な分だけ、チップカット長を調整して下さい。



手順 3.

ノギス等を用いて、シャフトのチップ先端から0.950インチ(約24.1mm)の箇所にマスキング・テープを巻きつけ、マスキング・テープよりも先端側を研磨し、清掃・脱脂して、接着の準備をします。



手順 4.

シャフトの12時の位置(クラブを構えた時の上側)にしたい箇所のマスキングテープにライン等のマークを付けます。通常、このマーキングをシャフト・アダプタのN(ニュートラル)の位置と合わせて接着しますので、ゴルファーが構えた際に見える面にマーキングします。接着剤を用意します。接着剤は、シャフト・アダプタ内部とシャフトのチップ双方に塗ります。



手順 5.

シャフト・アダプタの12時の位置についたドットが見えるように、専用レンチの穴にシャフト・アダプタを挿し、シャフト・アダプタにシャフトを挿します。シャフト接着方向の確認のため、手順 4でつけたマスキング・テープ上のマークと、シャフト・アダプタのN(ニュートラル)及びドットをあわせませす。溢れ出た接着剤を拭き取り、適正な養生時間、静置します。



手順 6.

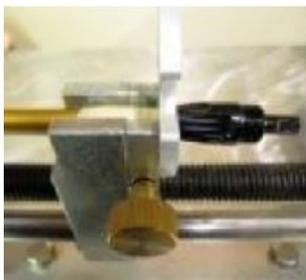
シャフトがシャフト・アダプタ内部で浮かないよう、バットを下にしてシャフトを立て、写真のようにゴム・ハンマーで軽く叩いて、しっかりと押し込みます。再度、接着方向を確認して下さい。

接着剤が完全に硬化したら、バットカットが済んでいない場合はカットし、グリップを挿入します。

以上で、FACE-FITシステムを備えたクラブが1本、完成しました！

ヘッド、シャフトの種類を増やして、フィッティングにお役立て下さい。

○シャフト・アダプタの取外し



手順 1.

シャフトの傷付きを防ぐため、シャフト・アダプタ上部のシャフトをマスキング・テープで包み、シャフト抜き工具にセットします。



手順 2.

必ず、耐熱手袋等を装着して、ヒートガン等でシャフト・アダプタを温めます。加熱は接着剤を溶融させる最低限度にし、決して加熱し過ぎないようにして下さい。接着剤が溶融し、シャフト・アダプタがずれ動くまで、徐々にシャフト抜き工具で力を加えて下さい。



手順 3.

ラバー・カバーを装着したクランプでシャフト・アダプタを掴みながら、シャフト抜き工具でずれ動かしていき、シャフトを抜き取ります。取り外し直後は、シャフト・アダプタが熱くなっていますので、冷ました後、シャフト・アダプタ内に残った接着成分をホーゼル・ブラシやアセトンを用いて除去して下さい。

再利用する場合は、3ページの「シャフト・アダプタ装着」をご覧ください。

○ホーゼル・アダプタの取外し



手順 1.

必ず、耐熱手袋等を装着して、ヘッド・ホーゼルをヒートガン等で徐々に温め、接着剤を溶融させて下さい。

※ホーゼル・アダプターを直接温めるのではなく、必ずヘッド・ホーゼルを温めて下さい。

※ヘッドはホーゼル以外の部分も非常に熱くなりますので、ご注意下さい。



手順 2.

H.A.I.T.を挿し、左右どちらかに回し、自由に回るようになったら、コンプレッション・ナットをラバー・カバーを装着したクランプで引抜き、ホーゼル・アダプターを取り外します。この時、ホーゼル・アダプターは非常に熱くなっていますので、冷めるまで触らないようにご注意下さい。



手順 3.

ホーゼル・クリーニング・ブラシ等で、ヘッド・ホーゼルに残った接着成分を除去します。ヘッドを再利用する場合、ホーゼル底部の接着成分除去には、ドリルやリーマーが必要な場合もあります。

アセトンや各種溶剤を用いて、ホーゼル・アダプターの外側に付着した接着成分を除去します。

再利用する場合は、2ページの「ホーゼル・アダプターの装着」をご覧ください。